

会 議 の 概 要

会議名	令和5年度 第1回宝塚市健康づくり審議会
開催日時	令和5年(2023年)12月26日(火)午後2時30分～午後4時00分
開催場所	宝塚市役所4階 特別会議室
出席委員	和泉委員、山岡委員、額田委員、藪内委員、大野委員、浅野委員、遠藤委員、前田委員、野村委員、宮本委員、西川委員、古田委員、柿坂委員、野原委員 (14名)
欠席委員	頭司委員、木本委員、難波委員 (3名)
傍聴者数	なし
公開の可否	公開
<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市長あいさつ ・委嘱状の交付と各委員の自己紹介 ・会長及び会長職務代理者の選任 <p>2 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康たからづか21(第3次)の策定について <p>3 連絡事項</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 「ご意見記入用紙」については、令和6年1月31日(水)までに郵送・FAX・電子メールのいずれかで事務局に提出 (2) 令和6年度 第1回宝塚市健康づくり審議会は、令和6年4月以降に開催予定 	

<報告事項> 健康たからづか21(第3次)の策定について	
(会長)	健康たからづか21(第3次)の策定について事務局より説明をお願いします。
(事務局)	説明
(会長)	計画の策定においては、国や県の計画との整合性を持ちながらも、健康に係る宝塚市独自の視点も入れて、地域の計画にする必要があると思います。正式には来年4月以降に計画策定の諮問を市長から受けると理解しました。
<質疑応答>	
(会長)	ここまで委員の皆様にご発言いただく時間がございましたが、せっかくの機会ですので、所属の団体や個人の生活の中での健康づくりについて、感じていることなどをご発言いただけましたらと思います。
(委員)	アンケートの実施が来年の1月、2月に設定されているところ、こういった形で実施される予定ですか。
(事務局)	アンケートについては、20歳以上の方を対象に3,000人を予定しています。対象者は無作為抽出ですが、完全なランダムではなく、3,000人に対して、

	年齢はおおむね 10 歳区分、性別は男女、小学校区は 23 小学校区の割合を市全体と同じ比率にして対象者を選びます。5 年ほど前に実施した時は、同様の方法で実施し、回収率は 40 数パーセント程度でしたので、今回も同程度になるとおもわれます。
(委 員)	前はサンプル数が 1249 になっていますけれど、サンプルの年齢構成は宝塚市の年齢構成とほぼ同じですか。
(事務局)	回答率は年代によって違い、特に高齢になるほど高くなる傾向にあります。若い人の回答はなかなか集まりにくいので、アンケート結果をそのまま市全体の意見として捉えると、ずれが生じる可能性はあると思います。
(委 員)	今回のアンケート調査については改善する方策はあるんでしょうか。
(事務局)	他の計画でもその年齢で調整していることがありますので、方法は研究していこうと思っています。
(委 員)	ICT の技術を活用しますと最初におっしゃられたので、若い世代の方に対しては、そのアプローチが必要だと思う。また、パブコメを来年の 12 月に予定されていますが、自分事として捉えた時に、できるだけ多くの方に見ていただかないと意味がないなあと。パブリックコメントの意見は、市民があまり目にするのではないような気がしているので、どう市民を巻き込んでいけるのか。例えばクリーンセンターの施設であれば、自分たちの町に来るので、ちょっと気になる人が増えますけれども、同じぐらい自分事として健康を捉えてもらわないといけないと思いますので、市民の巻き込み、どうしていくかをご検討いただきたい。
(会 長)	貴重なご意見ありがとうございます。他にご意見はありますか。
(委 員)	市民に対して、ICT のどの部分がどのように活用できるのかが、イメージしづらいです。我々みたいな年を重ねた者にも簡単に使えるようなものなのかということが 1 点。それから先ほど女性のことを重点的にということ、非常にありがたいと私自身は自分の専門分野として思いますが、何をもって、女性の健康を特異的に扱おうとしているのかという辺り、少し具体的に教えていただけたらと思うのですが。
(事務局)	まず ICT についてですが、既に市のデータヘルス計画や国民健康保険の方などで（レセプト情報から）どのような疾病があり、どのように医療費がかかっているかなどを調べることをしています。また、若い人向けにはインスタグラムを使った広報、ホームページなどを充実していくなど、SNS やメールなどの活用が考えられ、実施しています。今後、新しい技術も活用していきたいと思っています。 女性の健康については、先ほどの説明は国の資料のとおりです。市の第 2 次後期計画では、性別やライフステージごとに計画を立てており、あまり変わらないのかなとも思いますが、例えば骨密度や心の健康のことなど、女性の年齢ごとへの変化に対して何らか計画に盛り込めればと思っています。
(会 長)	他にいかがでしょうか。質問でなくても、ご意見でも結構です。
(委 員)	第 2 次後期計画の概要版の「健康寿命の延伸に向けた主な現状と課題」というのを見ましたら、市長がお話しされたように、男性の健康寿命が 81 歳といくつか、女性が 85 歳、県でも上の方のランクだということが書いてあったん

	<p>ですが、これを見て、非常に宝塚市はいいなということ、これは自慢すべき内容だなと思いました。それと同時に、じゃあ何がここまでいいのかなと。どういう内容、どこが秀でているのかはよくわからないので、がん検診や歯周病の予防とかいろいろありますけれども、そこをご説明いただきたい。そして自慢すべきというか、まだまだ伸ばしていきましょうということを、市民で共有する必要があると思います。さっき別の委員がアンケートやパブリックコメントについてもお話しされましたが、うまく市民を巻き込んで、自慢してもっともっと頑張りたいところを、アピールできればいいのかなと感じております。</p>
(会 長)	<p>健康寿命がすごくいいのは、どういった理由でしょうかというご質問にお答えいただきます。</p>
(事務局)	<p>まず、健康たからづか 21 第 2 次後期計画に掲載している、健康寿命の定義ですが、これは国が使っている定義とは異なっています。国は、アンケート調査で「あなたは健康だと思いますか」という質問に「健康」「まあ健康」と回答をした人の年齢を健康寿命としています。市が採用している健康寿命は県が算出している方法を使用しており、介護度が要介護 1、要支援までを「健康」とし、それよりも介護度が高い場合を「健康でない」としています。この方法では、国よりも健康寿命が少し長くなります。国の方法は主観が入り、県の方は対象が限られ、どちらも完全に健康寿命を把握できるものではないですが、出し方が異なるので、少し長いと感じられるかもしれません。宝塚市の健康寿命が長い理由としては、健診では受診率がすごく高いわけではないのですが、もともと地域での活動が活発だったのではないかとされており、その影響はあると思います。近年の研究では、地域活動が活発であったり、集いの場に参加している人たちは健康寿命が長いとか、ボランティア活動など何らかの役割を持っている人たちはさらに健康寿命が長くなるというデータもあります。これが要因ですとまでは言えないのですが、地域活動が活発であることは感じています。</p>
(事務局)	<p>もう一つ補足させていただくと、市民の皆様を巻き込んでということについて、具体的にどうしていくかというのを、お知恵もいただきながら考えたいと思っています。実は市内各地区にまちづくり協議会がございます。これまでは、市民の皆様に、健康に関する推進員になってください、その方々に健康づくりに関する指導をしてもらってくださいという呼びかけをしていました。今年度は取組を変えています。検診を受けているかということについて、主のがんに関することについて地域ごとのデータが出ています。データを見ていますと、地域によって検診を受けている割合の少ないところがわかってきます。また、すごくたくさん受けている地域と比較ができますので、まちづくり協議会の方に、ぜひこの検診の受診率を伸ばしてみませんか、個別にお話をさせてもらうことにしました。モデル的に二つ、三つほど地域から、「まちづくり協議会で話をしたいから教えてほしい」と声をいただき、個別に受診率向上の取組を始めました。まちづくり協議会の中で周知をいただくとか、自分の地域での検診受診率はこういう状況だと健康センターから聞いたということから、意識をしてもらうというような取組を始めており、これを継続的に広めていきたいと考えています。</p>
(会 長)	<p>市民の方もいろんな活動に参加されていて、市もバックアップしているところも大きいと思いました。あといかがでしょうか。</p>

(委 員)	厚生労働省から各都道府県知事宛に、歯科口腔保健の推進に関する基本的事項の全部改正についてという通知があり、その計画が令和6年度から令和17年度までと、説明いただいた計画と合致するところがあると思います。日本歯科医師会からも同じような情報が県歯科医師会、市歯科医師会にも届いています。具体的には、国の計画で歯及び口腔の健康づくりの具体的な項目が、13項目あります。その中には、各団体の方々と話し合いや、協力により進めていけることもございます。その情報をここに持ってきて、宝塚の各団体の方とお話をさせていただいて、進めさせていただこうかなと思っているので、よろしくお願いいたします。
(会 長)	他にいかがでしょうか。
(委 員)	健康たからづか21(第3次)の中に健康危機事案への対応とあるのですが、どんなことを想定しているのかをお聞きしたい。というのは、新型コロナで大変な感染症のパンデミックが起りましたが、そういったことを想定しているのかという話です。それから新型コロナが令和5年5月に、5類になりました。もうインフルエンザと同じですよというようなことですが、アメリカではワクチンを有料化した途端に、感染者が増えたという話があります。最近の人口動態調査を見ると、心不全パンデミックだと言われていています。心不全で亡くなる方が年間10万人近くになっています。5類になったからといって、ちゃんと追跡調査をしないといけないと思うんです。そういったことがこの中に入っているのかどうか。現在の計画でがん対策基本法に基づいたがん検診が出てくるのですが、循環器病対策基本法ができて、実際に差は何もないんです。心臓検診をやれというようなことも何も言われてないんです。今、心不全パンデミックだと言われており、そういったことを想定しているのかを聞きたいと思います。
(会 長)	最後の健康危機事案の内容ですね。今何か案がありましたらお願いします。
(事務局)	健康危機事案への対応については、まず第2次後期計画では、災害における健康確保のことで、新型インフルエンザの発生等における健康確保を挙げています。ですので、災害時のことと感染症のことについて記載していく予定になります。また新型コロナウイルス感染症などの、その他の感染症についての研究は、国、県などが進めていきますので、市の計画にどこまで書くのかは検討が必要と考えます。循環器の検診のことですが、国は、健康増進法の中で、科学的根拠があり実施することにより死亡率が下がる検診として、胃がん・肺がん・大腸がん・子宮頸がん・乳がんを示しています。また、併せて特定健診・後期高齢者健診などがあります。その他の検診は、参考のような扱いになっています。ですので、今のところ、健康たからづか21には国が示す検診が評価指標になると考えています。
(会 長)	よろしいでしょうか。では、他にいかがでしょう。
(委 員)	アンケートの内容ですが、例えば「主食・主菜・副菜のそろった食事を心がけていますか」とか「毎朝朝食を食べていますか」に「はい」と「いいえ」の回答は、経済的な理由や、本当はしたいけどできない理由からも出てきているかと思うんです。アンケートをするのなら、次にどういう施策をするのかが見えるようなものであればいいなと思います。今回のアンケートでフリーコメントのような形でとられるのかをお伺いしたい。もう1点は、健康たからづか21の目標項目について、「指標のうち、目標設定をするのは、アウ

	<p>トカムに関する指標とし、アウトプットは目標値を設定しない参考指標として整理する予定です」と書かれています。このあたりは第2次後期計画では無かったかと思えます。具体的にはどのように変わるのかがわからなくて、教えていただけますでしょうか。</p>
(会 長)	<p>今2点、質問があったかと思えます。アンケートの内容についてと、もう1点は評価指標のところですが、よろしいでしょうか。</p>
(事務局)	<p>食事の評価指標は、第2次後期計画で挙げている内容が中心になる想定です。他に、果物の摂取量の項目を増やしたり、少し変更しているところもあります。先ほどの、食べない理由、所得に問題があって食べられないとかは、今回の調査ではあまり調べることはできないところです。ですので、別の、国の調査など類似しているものを見ながら、こういう対策も必要だということ盛り込んでいくこととなります。もう一つ、アンケート項目のアウトカム指標を中心にとということですが、これまでは、何らかの実施率や、参加者の人数といった(成果までの)途中経過になるような指標を入れていましたが、それが必ずしも健康に繋がるのか、結果に結びついていないものもあったかと思えます。国がこれをすれば健康になりますと示しているもの、例えばがん検診では受診率を上げると死亡率が下がるというエビデンスがあったり、栄養でしたら、国では食塩の量が7グラム未満などを目標にしているので「減塩を心がけているか」を指標にするなど、アウトカムになっていなくても健康への科学的根拠につながる項目を、アウトカム指標と考えます。今回予定しているほとんどの項目は何らかのエビデンス、研究がされているもので、この数値を満たせばいいというものを中心になると思われます。</p>
(会 長)	<p>皆さんよろしいですか。次回以降にもご意見をいただきたいと思えます。それでは本日の会議はこれで終了とさせていただきますが、本日の議事録に関しましては、事務局と調整して私が確認させていただきたいと思えますが、よろしいでしょうか。本日はご協力いただきましてありがとうございます。</p>
(事務局)	<p>本日の会議の時間内で多くのご意見をいただき、大変参考になりました。もし、追加で言っておきたいという事柄がございましたら、本日お配りしている「ご意見記入用紙」に記入いただいて、事務局までお送りください。また、ご意見については、1月末までとさせていただきます。次回会議は来年の4月以降に予定しております。日程調整等については、3月までに連絡をさせていただき、開催の日時が決まりましたら速やかにお知らせいたします。</p>
<その他>	<p>補足、参考資料について</p>
(事務局)	<p>事務局から説明をした部分の補足ですが、健康寿命の考え方について、今の第2次後期計画の84ページのところに、県と国の算出法の比較を書いておりますのでご確認いただけたらと思えます。</p> <p>また、本日は参考資料として事前にお配りしています「健康たからづか21～令和4年度の実績について」ですが、特に重点項目について活動内容と評価を書いています。地域連携による子宮頸がん検診受診率の向上に向けた取組については、令和2年度から始めており、徐々に地域に広がってきています。こちらもぜひご覧ください。</p>